課題２３　大学からの伝言　ー批判的思考とは何かを知る

高校までの学びと大学の学びの大きな違いは何でしょうか。それは、高校までの学びはどちらかと言えば、知識を得ることに重きを置いていたのに対して、大学での学びは知識を得ることだけでなく、その知識を使って考えたり、問題解決したりすることが必要とされます。このように思考を深めたり、問題を解決したりするときに大切な能力が判的思考です。批判的思考とは、クリティカル・シンキングとも呼ばれ、端的に言えば、ある主張の妥当性について、直観や好き嫌いで決めるのではなく、その主張にはどのような証拠や根拠があるのかをじっくりと見きわめてから判断するということです。

以下ではＡさんＢさんという２人の大学生の会話があります。２人はどのような問いについて議論していますか。そして、２人はそれぞれどのような理由や考え方に基づいて議論をしているのでしょうか。あなたがこの２人の話に加わるとしたら、どのような主張をしますか。（1）～（5）の手順を踏みながら考えてみましょう。

Ａさん：「ねえねえ、Ｂさん、『ありがとう』って良い言葉ですよね」
Ｂさん：「突然どうしたんですか。確かに、『ありがとう』と言われると嬉しい気持ちになります」
Ａさん：「そうですよね！だから、『ばか』とか『あほ』とか悪い言葉は絶対言ってはだめですよ。こういう言葉は醜い人の言葉です」
Ｂさん：「えっ、そうなんですか。なんでそう思うんですか。」
Ａ さん：「最近とても感銘を受けた話があるんです。①ある人が、水に『ありがとう』という言葉をかけた場合と、『ばか』という言葉をかけた場合に結晶の美しさが変わることを見つけたらしいのです。もちろん、良い言葉をかけた場合は結晶が美しくて、悪い言葉をかけると結晶が醜い形になったり、水が腐ったりするということです。」
Ｂさん：「そんなことがあるんですか。たまたまじゃないですか。」
Ａさん：「実際に写真があるんですよ。」
Ｂさん：「誰が写真を撮ったんですかね。他の人も実験しているのでしょうか」
Ａ さん：「こまかいことは知らないです。あなたも気をつけてください。悪い言葉を使うとその人自身も醜くなってしまうに違いないです。悪い言葉は体にも悪いんですよ。」
Ｂ さん：「身体の健康にも悪いという意味なんですね。うーん、私にはまだ実感がわきません。そもそも、Ａさんの言う良い言葉と悪い言葉ってどんな言葉なんですか。『ありがとう』は良い言葉で、『ばかあほ』は悪い言葉なんですよね。」
Ａさん：「もちろんそうです。ポジティブな言葉なら良い言葉で、悪口とかネガティブな言葉は悪い言葉です」
Ｂ さん：「でも、『ありがとう』をネガティブに使うことも、『ばかあほ』をポジティブに言うこともできますよ。ありがた迷惑という言葉もありますけど、ありがとうって言いながら感謝していない場合もあるし、親しみを込めて『おばかさん』って好きな人に微笑みながら言われたらちょっと嬉しくないですか」
Ａさん：「あなたはそういう趣味なんですね…。私はどんな人にも『ばか』なんて言われたくはないです。」
Ｂ さん：「あらっ、そうなんですね。でも私は親しい人との会話で『おばかさん』と言うだけで醜くなるとしたら困ってしまいます」

Ａさん：「そうでしょう。だから、私は『ばか』なんて言わないです。言ったら醜い人間になってしまう」
Ｂさん：「もしそうなら、もう３回言っているので、危険ですね。」
Ａさん：「今の３回はあなたに教えてあげるためだから、ノーカウントですよ！」
Ｂ さん：「そうなんですか。でも、ネガティブなことを言うことは時には重要なことかもしれませんよ。例えば、誰かに嫌なことを言われたり、された時はネガティブな言葉でも言わないといけないじゃないですか。苦言を呈することで良い方向に向かうこともありますよ」

（1）ＡさんとＢさんの会話を読んで、Ａさんの⒜主張と、⒝その根拠となる事実をそれぞれ述べなさい。

（2）ＢさんはＡさんの主張を明確にするために、いくつか問いかけをしています。それはどんな問いかけですか。また、その問いかけによって、何が明確になったかを述べなさい。

（3）Ａさんが下線部①で挙げた話は、『水からの伝言』という主張です。この主張の根拠や、それに反対する主張の根拠についてインターネットや本を使って、できるだけ多く調べてみてください。

（4）（3）を総合的に判断した上で、あなたはＡさんの主張に賛成であるか反対であるかを、その理由を示しながら、まとめてみてください。

（5）ＡさんとＢさんのやりとりを踏まえて、批判的思考を働かせて議論を深めるためにはどのような態度や問いかけが必要だと思いますか。会話文に示されていないものを含めて考えてみましょう。